

令和6年度第2回美浜区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

1 日 時

令和7年3月18日（火）午後2時00分から午後3時30分まで

2 場 所

美浜保健福祉センター 4階 大会議室

3 出席者（28名）

（1）委 員

相原委員、市川委員、岩田委員、太田委員、蟹江委員、久保田委員、小柴委員、小谷委員、佐藤委員、清水委員、鈴木委員、十川委員、長岡委員、長田委員、中村（信子）委員、平野委員、水谷委員、森委員、吉川委員

※25名中19名の委員が出席

（2）事務局

中島美浜区長、内山美浜保健福祉センター所長（美浜区高齢障害支援課長兼務）、宮本美浜区地域づくり支援課長、内谷美浜区健康課長、中山社会福祉協議会美浜区事務所長 他4名

4 会議の概要

（1）議題1 美浜区支え合いのまち推進計画 令和6年度の取り組みについて

事務局から令和6年度の取り組みについて地区部会エリアごとのまとめた資料について説明した。具体的な取り組み項目ごとに代表する地区部会エリアからの報告を行い、その項目について、質問、意見、他の地区における取り組みなどの意見交換をおこなった。

<取組項目 （1）顔の見えるご近所づきあいの構築>

報告：稲毛海岸地区部会エリア

・岩田委員（社協稲毛海岸地区部会）→地区内の4つの避難所運営委員会が合同で防災イベントを実施できるようにし、地区全体として防災意識を高めたい。避難所運営委員会の統括により、各単一自治会が防災訓練を実施。エリア内の各関係団体と連携し街づくりを進めていきたい。地域の小中学校などを交流の場として、コミュニケーション・地域活動を行えるよう活用したい。

<取組項目 （2）地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり>

報告：幸町2丁目地区部会エリア

・長岡委員（区連協幸町第一中学校区）→令和6年度は「憩いの場さいわい」を開催し、安否確認や情報交換を行った。あんしんケアセンター主体で「見守りネットワーク会議」を開

催した。地区内に避難所が4か所あり、それぞれで避難所運営委員会を設置しており、防災訓練は幸町2丁目地区全体で行っている。防災訓練に中学生が小さいときから地域を知っているため参加させている。また、青少年育成委員会などと協力して昔遊びを伝えていきたい。幸町2丁目は居場所がないのが課題であるが、旧幸町第二保育所跡地に運動広場がオープンするので期待している。

<取組項目 (3) “みんなで” 支え合う「あんしん支え合いネット」の構築>

報告：幕張西地区部会エリア

・平野委員（社協幕張西地区部会）→子ども食堂を開催し、たくさんの人に参加していただいている。先日も用意した40食があつという間に無くなった。大人も一緒に食事をしている。食を通じて人が繋がり、楽しい時間が過ごせればと考えている。

<取組項目 (4) 防犯・防災対策を通じた地域づくり>

報告：打瀬地区部会エリア

・小柴委員（社協打瀬地区部会）→防災対策として防災知識、必要な備えを確認する「備えパーク」を毎年実施している。今年度も3月に幕張海浜公園芝生広場で実施。消防等の車両の展示も行い、多くの住民が興味を持っていた。打瀬地区は地区全体に42マンションがあり、地区全体をカバーする形で住民個々の力をつけていきたい。

・吉川委員（社協真砂地区部会）→マンションには全て自治会があるのか。

・小柴委員（社協打瀬地区部会）→42のマンションのうち、賃貸の7～8のマンションには自治会はない。また、新しいマンションには自治会が結成されない傾向がある。これからのマンションに自治会を設置するのは難しいと思う。

・吉川委員（社協真砂地区部会）→行政には自治会の設置を義務化するような条例を作るなどして後押ししてもらいたい。自治会設置するメリットを与えるなどして、対応してほしい。

・小谷委員（区連協磯辺中学校区）→この自治会を設置していないマンションがあるという問題を美浜区町内自治会連絡協議会で取り上げることが第一で、それに対して美浜区地域づくり支援課が支援していくことが必要。未加入のマンションに市の職員とPRのため訪問したことがある。また、既存自治会でも未加入の住民がいることも問題である。

・長岡委員（区連協幸町第一中学校区）→防災においては、マンションは管理組合で対応することになっており、マンションには管理組合は必ず設置されている。管理組合を通じて連絡を取り、防災訓練に参加するよう要請している。

<取組項目 (5) 町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり>

報告：幕張西地区部会エリア

・森委員（区連協幕張西中学校区）→11月に幕張西小で防災訓練を実施した。今年度は美浜区重点訓練として開催され、大規模な訓練となった。炊き出し訓練では豚汁を配るなどして参加者から好評であった。防災訓練のやり方がマンションと戸建てで違うため、地区として今後の課題である。

<取組項目 （６）地域住民参加型の支え合い体制の構築>

報告：幸町一丁目地区部会エリア

・蟹江委員（区連協幸町第二中学校区）→安心サポートの会は、誰でも安心して暮らせる街を目指し、高齢化の進展とともに生活支援を求める声により立ち上げた。6名の運営スタッフ、47名のサポーターで、年間1200件程度の利用があり、活動内容はごみ出し支援、買い物代行、家の中の掃除など幅広く支援している。利用者の皆さんからもこの会があるからこの町で暮らせる等の声をいただいている。

<取組項目 （７）地域での助け合い活動の推進>

報告：磯辺地区部会エリア

・小谷委員（区連協磯辺中学校区）→「支え合い活動」を各自治会単位で実施している。担い手の高齢化、若い世代の協力が得られないことが問題である。また、磯辺地区の高齢者には何かあればあんしんケアセンターに相談するように伝えており、日頃からいいアドバイスがもらえている。私は、千葉市はあんしんケアセンターをもっと拡充すべきと思っている。

<取組項目 （８）地域の保健と医療との連携による心身の健康づくり>

報告：幸町一丁目地区部会エリア

・長田委員（社協幸町一丁目地区部会）→理学療法士による健康教室を開催している。毎回テーマを決めて、参加者は運動している。参加者一人一人の状態を確認しながら、季節の状況に応じた運動（梅雨時、寒い時期の運動など）を教えてもらえるため、参加者に大変好評である。専門家の活用は大変に役立っている。

<取組項目 （９）健康づくりイベント等への参加促進>

報告：高洲・高浜地区部会エリア

・十川委員（社協高洲・高浜地区部会）→今年度の敬老会は、自治会組織がない地域にお住いの75歳以上の方に限定して実施した。民生委員に中心となってもらい、大いに楽しんでいただいた。また、ふれあい会食を3か所（高洲コミュニティセンター、高浜公民館、高洲3丁目集会所）で実施している。独居高齢者を対象にしており、大変好評である。

・吉川委員（社協真砂地区部会）→ふれあい会食は無料で実施しているのか。

・十川委員（社協高洲・高浜地区部会）→1人あたり材料費は600円かかっており、参加者は1人300円個人負担している。差額300円については社協地区部会で負担している。

・吉川委員（社協真砂地区部会）→材料費高騰により、真砂地区部会では4月以降値上げ含め検討している。

<取組項目 （10）誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信>

報告：真砂地区部会エリア

・市川委員（民生委員児童委員協議会）→真砂地区では、夏祭りを8月第3土曜日曜に開催しており、手作りのまつりで地域に浸透している。地域運営委員会が地区のホームページを作り、情報発信をしている。また、真砂地区は詐欺被害が多いため、被害を出さない取組み

をしていきたい。

＜取組項目 （11）身近な相談機関・相談者の情報共有＞

重点取組地区なし

＜取組項目 （12）オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり＞

報告：稲毛海岸地区部会エリア

・太田委員（区連協稲浜中学校区）→私自身の負担軽減のため、地域の案内をデジタル化したいと思っている。現状は、紙とデジタルのハイブリット。LINE で公式アカウントを作ってみたが、無料でできる範囲に限られており実用的でなかった。LINE は教えたくない人もいて、結果として有効的に利用することができなかった。お金を掛ければうまく行くかもしれないが、無料では限界がある。「イベントをやりました」ではなく、「〇日にイベントをやります」のようなやりとりができるといいと思っている。

・長田委員（社協幸町一丁目地区部会）→真砂地区ではホームページを専門家が作成したのか。

・市川委員（民生委員児童委員協議会）→真砂地区のホームページは、委員の知り合いに分かる人がいて作成を依頼した。

・長田委員（社協幸町一丁目地区部会）→SNS を使えない高齢者も多い。今は紙とデジタルどちらもやっているのか。

・太田委員（区連協稲浜中学校区）→稲毛海岸地区はだいぶ若返りしている。自治会長も、高齢の方は2～3人位で、現役世代が多くなってきている。それでも、まだ回覧等のデジタル化は難しい。有料の費用をどこまで出せるかの問題が大きい。

・久保田委員（区連協真砂中学校区）→真砂地区のホームページは、最初に地区連が50万円出資し、維持管理は地域運営委員会に任せている。月々業者に2～3万円支払っている。

＜取組項目 （13）支え合い意識の醸成＞

重点取組地区なし

＜取組項目 （14）ボランティア人材の育成＞

報告：打瀬地区部会エリア

・小柴委員（社協打瀬地区部会）→最近イベントに来場した人に声掛け、アンケートを行い、出来るだけ若い世代を取り込みたいと考えている。イベントは、地区として年間150～200回、延べ5,000人が参加している。ホームページは、真砂地区部会との交流を通じて学ばせてもらった。幕張ベイタウン協議会のホームページの一部を使用し、活動報告をしている。

＜取組項目 （15）ボランティア活動への参加促進＞

報告：磯辺地区部会エリア

・水谷委員（民生委員児童委員協議会）→コロナ禍でイベントが中止となり、たくさんの人

を集めるのが難しくなった。何とかボランティアの人を集めたいと思っている。地区部会の地域拠点でイベントを開催したい。ボランティアの確保のため、交流を通じて、待っているのではなく出向いていくようにしたいと考えている。

・佐藤委員（ボランティア連絡協議会）→磯辺地区ではいきいきサロンを復活してもらいたいと思っている。私は懐メロの演奏をするので、いきいきサロンではいつも活動していた。呼ばれればまた参加したいと思っている。

（２）議題２ みんなが主役（美浜区推進協だより）について

事務局から、令和７年３月１日にみんなが主役（美浜区推進協だより）第２３号を発行したことについて報告し、その内容について説明した。